

質問

二地域居住の推進について。

町長答弁

体験プログラムの提供、情報発信に努めるべく、平成19年度には機関紙「湯沢暮らし」の発刊、「湯沢暮らしのホームペーシ」、「湯沢暮らしの体験」の三事業を予定している。

質問

町長の財政認識と将来の財政展望は。

町長答弁

当初予算は60億であるが、投資的経費を除いた経常経費は53億円程度であり3億円程度の削減となっている。

質問

新行政組織に移行することで迅速な意思決定と弾力的な組織運営がなされるか。

# 町長の財政認識と

# 将来の財政展望は

町長答弁

1人の職員が複数の事務を担当し、たらいまわしと言われる従来の弊害を解消していきたい。職階制度を課長、班長、主任と明確化し管理職の班長にも予算執行における決定等の権限を付与することで決済スピードが速まると期待している。

質問

既存の町有施設の存続検討の具体的対象、検討方法、及び実施時期は。

町長答弁

後年度負担を考慮して慎重に判断しこれから検討していきたい。

質問

湯沢病院の医療及び療養型介護施設が廃止・縮小されるなかで、今後の病院のありかたをどのように考えているのか。

町長答弁

平成23年度を目途に保健医療

どのように改善をするのか。

町長答弁

全面的改定し、円滑に目的の情報に到達できるように、住民向け、来訪者向け、ビジネス向け、行政向けの四つの用途で表示していきたい。

視覚聴覚に不安のある方々にも対応できるようにしたい。

総務省の規範に沿って行いたい。観光PR等の行い、広告枠も設けていきたい。以上をポイントとして業者の選定を行っていききたい。

質問

光ファイバーについて、通信事業者からの具体的な回答内容について。

町長答弁

NTTより示された目標に僅か及ばなかったが、湯沢町の取り組みに理解を示し、早速にも現地調査を行いたいとの回答であった。

質問

行財政改革の立場から町広報と公民館報の統合について。

町長答弁

19年度を目途に検討したい。

質問

総合案内担当を配置する考えはどうか。

町長答弁

町民課に職員を1名増員し総合窓口係を含めて来客の親切な対応を行う体制としたので、選任の担当の配置は考えていない。

質問

国際交流については、教育交流からどの時点で姉妹都市締結及び市・町民交流を考えるのか。

町長答弁

現在はマグナの方々とも教育交流を継続することが大切という考えで一貫しており、当分は教育交流を進めていく。

質問

滞納処理の中で町長の訪問もあるようだが、その状況はどうなっているか。

また滞納処分や回収に不均衡はないのか。

町長答弁

個別の訪問の際、観光振興やイベント等の情報交換をする中で滞納の状況や経過を聴取し、納税の協力を求めている。滞納処分には不均衡の生じないよう行っていく。



総務文教常任委員会  
高橋博幸